



① 萬羽軒

平成14(2002)年オープンの「萬羽軒」は、古書画、硯・古筆などを扱う、まさに知る人ぞ知る店。店主の萬羽啓吾さんは良寛作品をはじめとする書の目利きとして知られている。良寛の書、平安・鎌倉の古筆切、いわゆる日本の美しい書を専門に取り扱う。端溪水巖(たんけいすいがん)の硯を中心に、古墨・石印材も多数取り揃えている。文人趣味と日本の美しい書に興味のある方は、ぜひ立ち寄りたい店舗だ。

03-3295-7116
千代田区神田神保町1-27



② 文房堂

明治20年(1887)創業、日本で初めて油絵具を製造・発売した「文房堂」は、現在流通する画材全般の基礎を作ったことで知られる。旧本社ビルは神田一帯が焼け野原となる関東大震災にも耐えた。その装飾性あふれる正面外壁(幾何学模様の外装、ロマネスク風の4連アーチ窓、素焼き陶器製の花飾りなど)を保存しつつ背面を特殊工法で建て替えた本社建物は、平成15年「千代田区景観まちづくり重要物件」に指定された。画材をはじめ、アート系ポストカードなど誰でも楽しめる文具・雑貨が充実。アートスクールやギャラリー運営も行う。

03-3291-3441
千代田区神田神保町1-21-1



③ 三省堂書店

明治14年(1881)、近代化への胎動の真っ只中に古書店として誕生した「三省堂書店」。全国で知られる大手書店の本店が神保町にある。本好きが集まる知の殿堂、その売り場面積は約1,000坪。本の町・神保町のランドマークとして豊富な在庫をそろえる。サービスカウンターでは店員が本探しを手助けしてくれる。巨大な"デパート"をぶらりと散策するもよし、プロの手を借りて探している本を一発探索するもよし、さまざまに楽しめそう。作家のサイン会、著者による講演会などイベント情報はホームページに掲載。

03-3233-3312
千代田区神田神保町1-1



④ 山形屋紙店

創業明治12年(1879)、宮内庁御用達の和紙の老舗「山形屋紙店」。神田の大火(大正2)、関東大震災(大正12)、東京空襲(昭和20)にも耐え抜いた蔵がある。店内には、使い道を想像するのが楽しい"紙好き"にはたまらない各種製品がずらり。日本各地のさまざまな和紙、書道・絵画用和紙、千代紙、便せん、葉書、ポチ袋など、昔ながらの手法で漉いた和紙から現代的な和紙まで幅広い。当店ではか手に入らないオリジナル商品も扱う。渋い外観とは対照的に、店内は色とりどりの和紙が並び、ふんわりとした華やかな雰囲気だ。

03-3221-7829
千代田区神田神保町2-17



⑤ 玉英堂書店

「玉英堂書店」は希少で優れた貴重な「稀観本(きこうぼん)」の専門店。明治35年(1902)に本郷湯島・天神下で古本兼貸本業として開業し、大正15年、神田神保町に移転。そして「オリジナルだけが持ちうる筆跡、装丁、紙質により作家が生きた時代に近づきたい」(店主)との思いで昭和55年、2階に稀観本と自筆物の"特選ルーム"を開設。室町後期の源氏物語絵巻、良寛の書、司馬遼太郎の肉筆原稿など、文学史・美術史で知る名前がひしめく、密度の濃い光景だ。観覧自由。目録は年3~4回発行。

03-3294-8044
千代田区神田神保町1-1



⑥ magnif

平成21年開業の「magnif(マグニフ)」は、雑誌バックナンバーを軸に、ファッション、アート、サブカルチャーをカバーする古書店。特に「"古本の街"と呼ばれる神田神保町で、ファッション雑誌がメインの書店は当店のみ」(店主)とのスタンスで差別化を図る。『VOGUE』に代表される海外モード誌、『MEN'S CLUB』など日本の男性誌をはじめ、品そろえは1900年代初頭から近年のものまで。生まれる前の時代のファッションに「かっこいい!」と感動する客も多いという。

03-5280-5911
千代田区神田神保町1-17



⑦ 大屋書房

明治15年(1882)創業の「大屋書房」は、江戸時代に刊行されたあらゆるジャンルの出版物を扱う。江戸文化の息は明治中期の1900年頃までおよぶため、同店の取り扱いも厳密にはその辺りまで。和本のほか、江戸時代の古地図、浮世絵、幕末・明治の古写真も扱う。神保町に170店ほどある古書店の中でも、「時代」で括る品そろえは非常に珍しい。美術館でガラス越しに見るような本や絵を、実際に手にとることができる。京極夏彦の小説に登場する妖怪が載った和本も多数。

03-3291-0062
千代田区神田神保町1-1



⑧ 東陽堂書店

大正13年(1924)創業の「東陽堂書店」は、仏教、宗教、易、日本史、東洋史の学術研究書と古典籍を扱う。当初は他の古本屋と同じく、教科書や一般書などを売っていたが、二代目の頃から仏教書を中心に集めるようになった。現在では、日本でも有数の仏教書専門店となった。書棚には古本に混ざって新刊も並び、宗派別に並べてあるのでとても探しやすい。平安末期の「神護寺経」のように千年の歳月を経た美しい巻物など、1000万円を超えるものも扱う。「お探しの本がありましたら、気軽にお声がけください」(店主)

03-3291-0078
千代田区神田神保町1-1



⑨ 八木書店 古書部

創業は昭和9年(1934)、「八木書店 古書部」は上代から近現代までの日本文学を扱う。歴史的に極めて価値の高い本の影印本、近代文学の初版本や草稿、自筆物の充実が特徴だ。その一例、正倉院で千年以上保管されている文章を精密な写真と印刷、劣化の少ない中性紙で再現する「正倉院古文書影印集成」は研究者垂涎の的。管理システムに先端技術の導入や、新刊書のバーゲンブック(特価本)など業界先駆けの取り組みでも知られる。年に2回、近代文学の魅力を深める特別講座を開催(参加無料)。目録は1月、10月の年2回発行。

03-3291-8221
千代田区神田神保町1-1



⑩ 東京堂書店

創業明治23年(1890)、「東京堂書店」は神保町古書店街の黎明期から営む老舗の1つ。文芸書・人文書をはじめ、豆本・地方出版物・リトルプレスまで充実した品そろえを誇る。「作家さんがふらっと訪れることもあり、ぱったり遭遇できるかも」(書店事業本部)。平成24年には"居心地のいい本屋"を目指し、「ブック&カフェ」としてリニューアルした。人気のカフェメニューは、野菜の甘みとスパイスの辛みが絶妙にマッチした"東京堂カレー"。「一口でふわっと味が変化するのがわかります。」(同)本と一緒にぜひカレーも。

03-3291-5181
千代田区神田神保町1-17



⑪ 軍学堂

当初は通信販売店舗であったが、平成22(2010)年に神保町に店舗をかまえた「軍学堂」。名前の通り軍事・戦争関連の書籍を専門とする古書店。「軍事・戦争の歴史について学びたい、知りたいと思う方々の力になれば」と店主は語る。また戦史以外にも、当時の資料や、兵器、皇室、諜報などに関する書籍も扱っている。戦争に関する書籍の扱いに加えて、「軍学講座」と題した講演会を定期的に主催しており、人気を集めている。

03-3233-7677
千代田区神田神保町1-1 倉田ビル2F



⑫ レオマカラズヤ

創業は明治39年(1906)、「レオマカラズヤ」は紳士用カバンを扱う老舗。風変わりな店名は、「これ以上、負(ま)からない」を意味する。日本では19世紀後半に百貨店が「正札販売」を採用するまで、買い手との駆け引きで商品の値段を上げ下げするのが一般的だった。17世紀に呉服商の越後屋(現・三越)が始めた「現金掛け値なし正札商法」が根づくまで200年を要したが、当店は「明治時代、負ける負けないという慣習をやめ、正直な正札主義を貫く意思を表した。今は事前に値引きしており、これ以上負けれないという意味です」という。

千代田区神田神保町1-3



選んだスポット



つながるスポット

Copyright(c) NPO 法人連想出版

